

2019 年度 上智大学経済学部経営学科 網倉ゼミナール 卒業論文

なぜサイパンから日本人が消えたのか

A1642573 今井春花

2020 年 1 月 14 日

1.はじめに

旅行が身近な存在となっている近年、日本人の旅のスタイルも時代とともに変化している。卒業論文のテーマを検討する過程で、東洋経済の「サイパンとグアム、日本人が消えた楽園の今」という記事を発見した。その記事によると2017年の時点で、グアムの日本人観光客数はピーク時の1997年から3割減、サイパンは9割減と著しく減少したという。一方、ハワイは同じく1997年に221万人をピークに、リーマンショック後の2008年には117万人まで減少したが、現在は150万人程度の水準にまで復活している。私自身、友人と卒業旅行の行き先として、リゾート地の中でどこに行くかを決める際1番最初に候補にあがったのはハワイだった。次にバリ島、セブ島、グアムの順だった。調べていくうちに「サイパン」を発見したが、友人らは太平洋戦争のイメージを持っていたり、周りで行っている人を聞いたことがないなどの理由から即候補から外れてしまった。予算や目的、滞在日数の観点から行き先は結果的にハワイに決まった。

本論文を通して、同じリゾート地でありながらこれらの差はいかにして生まれるのかを追求し、消費者の意思決定過程の変化や外的要因など様々な角度から調査していき結論にたどり着きたいと考えている。

目次

1. はじめに
2. サイパンを訪れる日本人の推移
 - 2.1 サイパンとは
 - 2.2 日本人の海外旅行者数
 - 2.3 サイパンを訪れた日本人の年齢と性別の変化
3. 疑問
4. 仮説と検証①
 - 4.1 サイパンへ訪れる日本人の理由
 - 4.2 仮説①
 - 4.3 検証①
5. 仮説と検証②
 - 5.1 仮説②
 - 5.2 検証②
6. 仮説と検証③
 - 6.1 仮説③
 - 6.2 検証③
7. 結論
8. おわりに

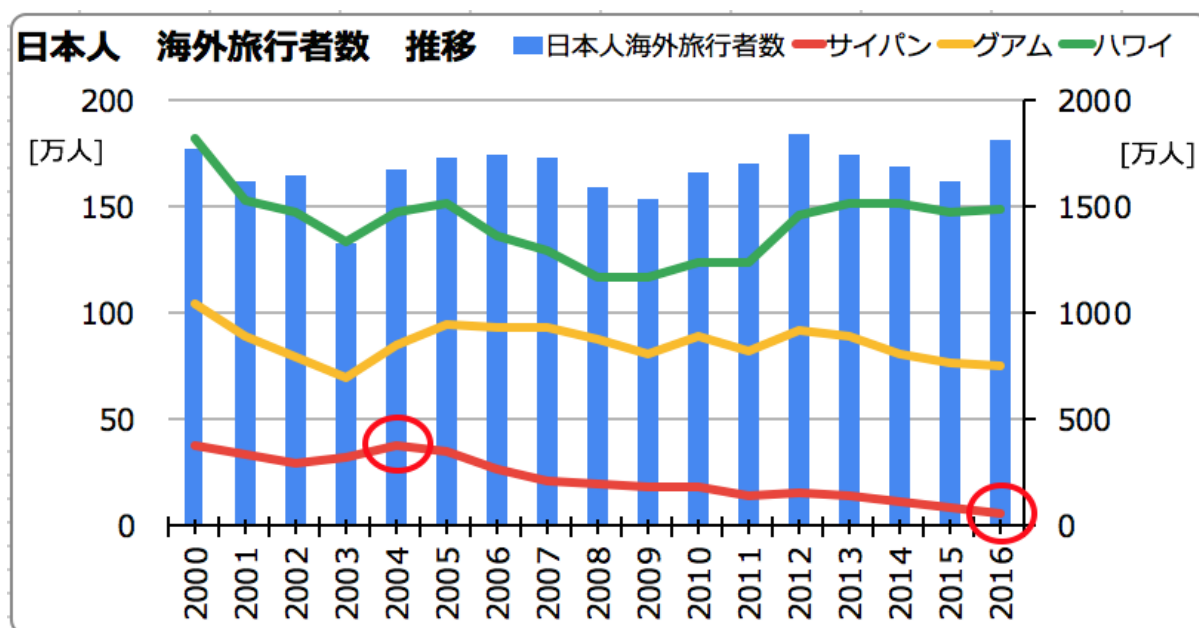
2.サイパンを訪れる日本人の推移

2.1 サイパンとは

サイパンはアメリカ合衆国の自治領で、ミクロネシアの北マリアナ諸島に所属している。マリアナ諸島を訪れる97%の人(2001年)はサイパンに訪れている。時差は日本よりも1時間早く進んでおり、日本からは直航便で3時間半ほどの場所に位置している。

2.2 日本人の海外旅行者数

2000年から2016年の日本人全体の海外旅行者数とサイパン、グアム、ハワイの旅行者数の推移が図1である。日本の海外旅行者数は2000年以降、1700万人前後で推移しており、その内、代表的なリゾート地であるハワイは平均142万人で8~10%を占める。グアムは平均86万人で約5%前後で推移している。一方、グアムと近いサイパンは2004年の38万人をピークに2016年には6万人まで84%も大幅に減少し、行先の比率でも0.3%に留まっている状況であると分かる。



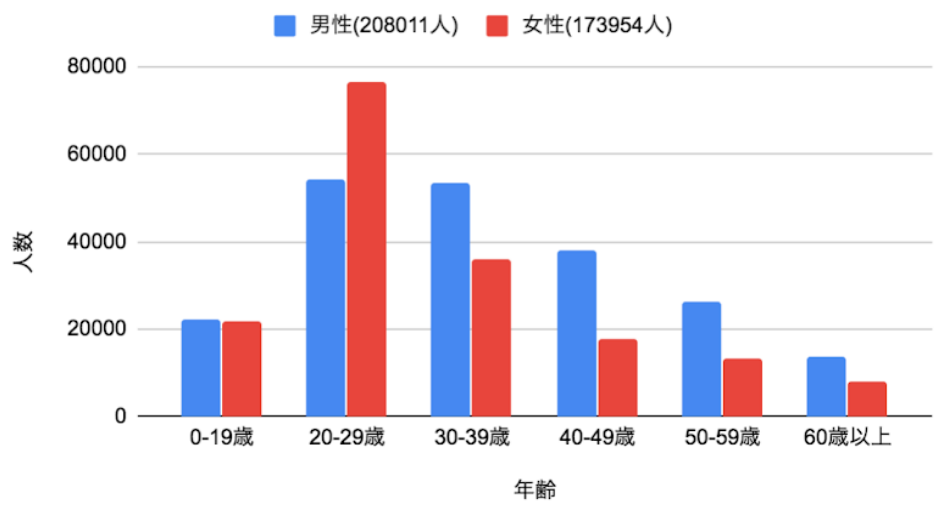
(図1)日本人海外旅行者数の推移

参照: JTB 総合研究所(2018)、サイパン、グアム、ハワイの年間訪問者統計を元に作者作成

2.3 サイパンを訪れた日本人の年齢と性別の変化

次にサイパンを訪れた日本人の年齢と性別の内訳を見てみる。1999年は男女ともに20代が多く、全体の20%以上を占めており、その次に30代が17%を占めている。2018年には、全世代の人数が85%前後で減少しており、世代や年齢による差はないことが分かった。

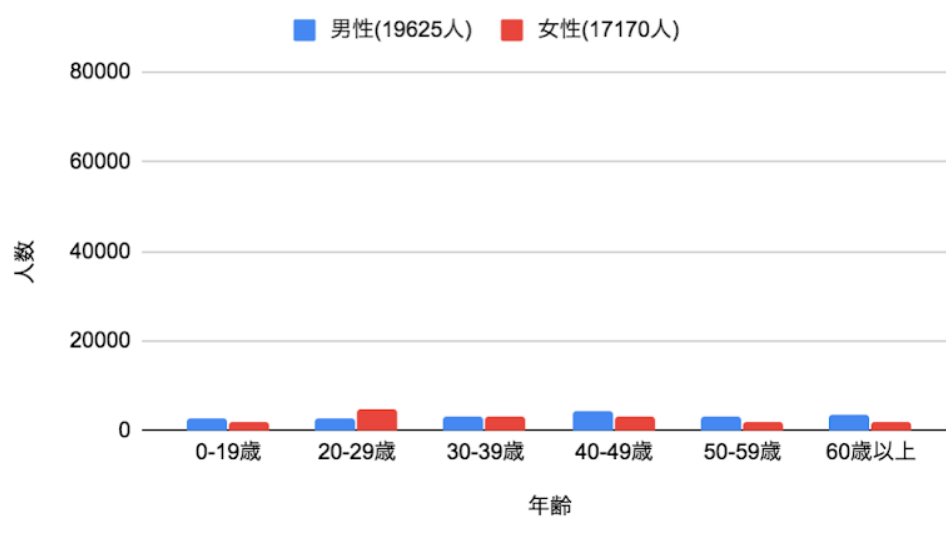
サイパンを訪れた日本人の年齢と性別(1999年)



(図2) サイパンを訪れた日本人の年齢と性別(1999年)

参照：1999 CNMI Statistical Yearbook を元に作者作成]

サイパンを訪れた日本人の年齢と性別(2018年)



(図3) サイパンを訪れた日本人の年齢と性別(2018年)

参照：Marianas Visitors Authority FY 2018 Annual Report を元に作者作成

3. 疑問

ではなぜ、日本人全体でこんなにもサイパンへ行く人が減ってしまったのだろうか。同じリゾート地でありながらなぜ日本人はハワイやグアムへ行き、サイパンへは行かないのか。グアムに関してはサイパンと同じ距離であるにも関わらず、なぜグアムは一定の日本人訪問者数を保ち、サイパンは保つことができなかったのかという疑問が生じた。多くの日本人が訪れていた過去に比べてサイパンの魅力が劣ってしまったのか、それとも日本人の価値観が変化したのか、後者の場合だとするならばなぜハワイには変わらずに一定数の日本人が訪れているのか、多様な角度から調査、分析していき、結論にたどり着きたいと思う。

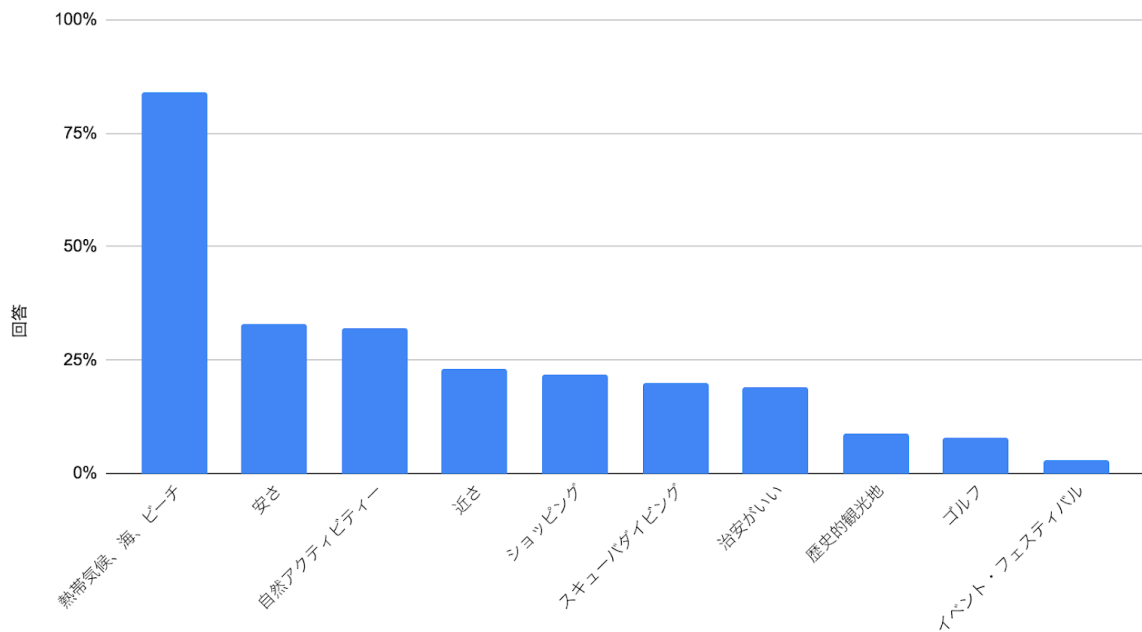
。

4.仮説と検証①

4.1 サイパンへ訪れる日本人の理由

2011年に Marianas Visitors Authority(MVA)が2011年5月から10月にかけて、サイパン国際空港の出発ラウンジで951人の日本人訪問者にサイパンを訪れた理由の調査を行い、20項目の内当てはまるものに全て回答してもらった。その結果、最も多かった回答は「熱帯な気候、海、ビーチ」であり、次に「安さ」が答えられていた。(図4)

日本人がサイパンを訪れる10の理由



(図4) 日本人がサイパンを訪れる10の理由

参照：Northern Marianas Islands Tourism Master Plan 2012-2016(2012)を元に作者作成

ではサイパンへ行く飛行機は今と昔でどれほど変化しているのだろうか。旅行業界関係者によると、2007年頃は旅行会社の目玉商品として、ツアーパッケージを約3万円前後で販売していたが、現在の価格は6~7万円であり、昔の倍の価格となっている。そこで、以下に1つめの仮説を立てる。

4.2. 仮説① 日本から安く行く手段がなくなったから

図4からもわかるように、サイパンへは安くて、近くて、すぐにいける事に価値を見出している人が多かったのではないかと考えられる。かつては日本航空(以下 JAL)やデルタ航空、ユナイテッド航空が日本からの直行便を多く飛ばしていたが、2000年以降に徐々に路線を削減していった。JALは2005年に撤退し、日本から唯一の直行便として残っていたデルタ航空も2018年5月に撤退している。その後、日本からサイパンへ行くためにはグアムもしくは韓国で乗り継ぎをして行かなければならなかったが、2019年11月29日より、スカイマークが初めての国際定期便として成田ーサイパン間の路線を新規開設した。これが現在、日本から唯一の直行便であり、毎日運行している。片道あたりの普通運賃は80000円からでいずれも諸税や燃油サーチャージは別途必要となる。

4.3 検証①

マリアナ諸島のオンライン通信(2000年)によると1999年にサイパンを訪れた日本からの訪問者数(372101人)の内、210660人がJALを利用してサイパンを訪れており、半数以上(56.6%)の人がJALを利用していることが分った。また、2012年に Marianas Visitors Authority (MVA)によって作成された Northern Marianas Islands Tourism Master Plan によると、2005年にJALが直行便を廃止して以降、マリアナ諸島は国際線における収容人数を35%失ったとある。これらのことからJALはサイパンに多くの日本人を運び、日本とサイパンを結ぶ重要な架け橋となっていたと考えられる。一定の需要がありながらなぜJALはサイパン路線からの撤退に踏み切ったのか。考えられる理由を以下に述べる。

1. 割引運賃や低価格のパッケージツアーの流通

JALは1994年4月から2005年3月まで毎年特別企画として販売期間限定の安心・割安な正規割引運賃「JAL 悟空」を販売していた。サイパンも1998年から対象国となり、期間中の往復運賃は前売り券の価格も含めると18000円~33000円で販売されていた。さらに、エコノミークラスの普通運賃の区間マイルの70%が加算される。また、ツアーもJTBのある幹部によると、当時3~5万円で安売りをしまったため、航空会社の取り分が少なくなってしまったと語っている。また、サイパン路線において、マイレージポイントの利用による搭乗が多かった事も収益の低下繋がっている。

2. リゾート地であることによって、需要の変動が激しい

サイパンを訪れる人の約94%が旅行の主な目的は娯楽/休暇であり、1994年から1999年において日本からビジネスを目的としてサイパンを訪れた人の平均は0.45%と1%以下であった。そのためビジネスクラスの運賃をほとんど販売できなかった。それに加えて月によって訪問者数にはばらつきが見られた。1998年を例にとってみると、日本からの訪問者数が最も多い1月は37877人、最も少ない10月は24753人とその差は13124人であった。航空会社は座席の供給量が決まっており、在庫が効かない航空会社にとっての収入は「お客様の搭乗数」と「購入運賃」をかけあわせたものが収入となる。そのため、各運賃で販売する座席数のバランスを最適にすることで1便あたりの収入を最大化することが可能となる。(AsiaX,2017)しかしサイパンに多くの日本人が訪れていた当時、サイパンでは激しい価格競争が行われていた。そのため、JALは価格を上げることができず収益を増やすことが不可能だったと考えられる。

3.ハブ空港ではなかった

マリアナ諸島に到着する飛行機はほぼすべての終着地点であったため、乗り継ぎ料金の恩恵を受ける事ができなかった。グアムは乗り継ぎ可能だったため、この恩恵を受けていた。

3.航空燃料が高かった。

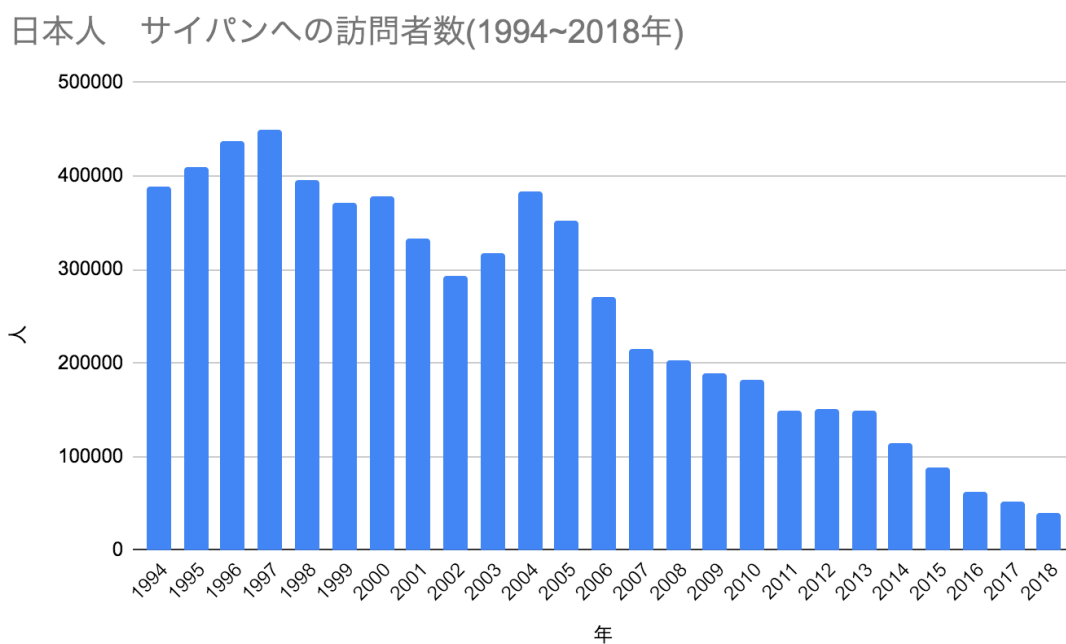
サイパンには航空燃料供給業者は1社しかなく、航空燃料のコストは他の目的地（特にグアム近隣の島）よりはるかに高かった。燃料タンクのセットはサイパン国際空港に1セットしかなかったため、すべての国際線でサイパンかグアムで給油する必要があった。

これらによって、JALは価格競争やコスト負担が大きくなりサイパン路線では収益が得られず撤退することとなった。JALが撤退した事は、多くの日本人の足をサイパンから遠ざける要因になったと言える。しかし、JAL撤退後も他の航空会社からの直行便での運行はされていたはずだ。それなのに、日本からの訪問者数が減少したのはなぜなのか、2つ目の仮説とともに検証したい。

5. 仮説と検証②

5.1 仮説② JAL 撤退によるサイパンの観光ビジネスの不振

日本からの訪問者がピークを迎えた 2004 年、日本人はマリアナ諸島の訪問者 70%以上を占め、年間 38 万人以上の日本人が訪れていた。しかし、JAL が撤退した 2016 年には全体の 11%にまで減少し、年間 6 万人をわずかに上回る数の日本人が訪れている。JAL のサイパン路線撤退が発表されたのは 2005 年 5 月下旬で、同年の 10 月に後退した。サイパンの観光事業は新たな施策をとれないまま日本人観光客から得ていた有力な資金源を失い、観光ビジネスが縮小した事で、その後の日本人の足も途絶えたのではないかと考える。



(図 5) 日本人 サイパンへの訪問者数(1994 年-2018 年)

参照：サイパンの年間訪問者統計を元に作者作成

5.2 検証②

サイパンは1980年代後半から1990年代前半にかけて日本人の投資家によってリゾートホテルやゴルフ場などの観光施設が建設された。日本から約3時間で着く事から、現実から逃れてビーチで過ごしたりスキューバダイビングをしたり、週末にゴルフをして楽しみたいカップルや家族、学生にとっては気軽に行ける場所だった。そんな宿泊施設やゴルフ場は今どのようになっているのだろうか。

2012年のMVAの調査報告書によるとJALが撤退した2005年以降、日本人訪問者数の減少に伴って多くサイパンでの観光ビジネスコストが上昇し、多くの観光施設運営者に影響を及ぼしたという。現在サイパンには数千のリゾートホテル、5つのゴルフ場、DFSや地元のショッピングセンターなどがある。しかし、サイパンの中でかつて豪華なショッピングセンターであったFiesta San Roque luxury shopping centerや宿泊施設のThe Plumeria ResortとPalm Resortはその影響を受けて倒産してしまった。図4の日本人がサイパンを訪れる理由の1つにショッピングも含まれていたように、大きなショッピングモールを失った事が日本人に与えた影響は大きいと言える。長年サイパンの魅力の1つであったサイパン植物園も閉鎖され、今では草に覆われてしまっている。以前まで日本人観光客向けに運行していたバス会社も2社倒産している。現在サイパンでは市内バスは運行しておらず、移動の際はレンタカーもしくはショッピングセンターDFSから1時間に1本出ているシャトルバスの利用が可能である。しかしその一方、自然の魅力は維持しており、訪問者の満足度で高い評価を受け続けている。サイパンを一望できる「レストラン360」が新しくオープンしたり、木曜日の夜にはガラパンストリートでマーケットが開催されている。ローカルも楽しみにしているイベントでもあることから毎週数千人で賑わっており、観光客の多くはこのようなイベントを求めている。しかし現在サイパンにはナイトライフやショッピングの機会が不足しており、観光開発に遅れをとっていると言える。

このように現在のサイパンは豊かな自然はあるものの、JAL撤退による日本人の減少の影響で、買い物やイベント、交通、食などの面から日本人が海外旅行において重要視するニーズを満たすことができず、日本人観光客が減っていったと結論付ける。

6.仮説と検証③

6.1 仮説③ サイパンへ行かなくてもハワイ/グアムで経験できる

現在のサイパン、グアム、ハワイの渡航費を表にして比較してみると現在最も安く行けるのはグアムであり、その次にハワイ、そして最も高いのがサイパンだった。(表1) 費用を算出するにあたって、2020年3月1日~3月4日まで4日間の日程で行くことを想定して、総合旅行サイトトラベルコによる直行便かつ最安値の料金で比較している。いずれも往復でエコノミークラスの料金である。サイパンへ「安く行ける」という最大の特徴を失った今、サイパンへいかなくてもハワイ・グアムでも同じもしくはそれ以上の経験をできるがゆえにサイパンを訪れる日本人が減ってしまったのではないかと考えた。

[2020年3月1日~3月4日 想定] (2020.1.12 現在)

国名	飛行時間	渡航費
サイパン	約 3.5 時間	79700 円 (スカイマーク)
グアム	約 3.5 時間	47460 円 (ユナイテッド航空)
ハワイ(成田-ホノルル)	約 6.5 時間	75830 円 (ANA)

(表1)

6.2 検証③

検証するにあたって、「サイパン」「グアム」「ハワイ」の情報量と消費者の関心度を比較するため、グーグル検索による「検索ヒット数」とインスタグラムのハッシュタグ数に着目したいと思う。図4の日本人がサイパンを訪れる理由の項目（ビーチ、自然、ショッピング）ごとに検証していくこととする。グーグルの「ヒット数」を情報量とし、インスタグラムの「タグ数」を関心度とする。

まず、「サイパン」「グアム」「ハワイ」で検索をかけてみる。(表2)するとハワイ、グアム、サイパンの順で情報量も多く、インスタグラム上のハッシュタグ件数もハワイが群を抜いている。これは、冒頭で述べた日本人観光客数の多さにも比例していると言えるだろう。

	検索ヒット件数	タグ件数
サイパン	795万	8.5万
グアム	2240万	93.2万
ハワイ	10900万	567万

(表2)

◇「ビーチ」

次に各地の「ビーチ」を見てみる。(表3)ハワイのビーチのタグ件数が約3500件に対して、サイパンのビーチは僅か15件と大きな差が生まれた。実際にサイパンにはダイビングやシュノーケリングを楽しめる緑豊かなビーチもあるが、一見穏やかに見えても高波や潮の流れが速くなる事で危険なビーチも存在する。グアムにはライフガードの監視や警察官のパトロールがあるため安全に楽しめるビーチやサンセットを楽しめるビーチがある。ハワイにも「天国の海」と呼ばれるほど透明度が高い美しさを持つ海が存在する。

	検索ヒット件数	タグ件数
「サイパン ビーチ」	196万	15
「グアム ビーチ」	780万	1525
「ハワイビーチ」	2270万	3478

(表3)

◇「自然」

「自然」において、サイパンは3項目の中で最も検索ヒット数が多かった。実際にサイパンには手付かずの雄大な自然があり、マリナクティビティーも充実している。政府によって自然保護区に指定され手厚く環境が保護された「禁断の島」と呼ばれる島があり、枝や草をかき分けながら進んでいくと視界が開け、最高のオーシャンビューと心地よい潮風に包まれるスポットが存在する。また、島北端には「グロット」と呼ばれる断崖に囲まれた神秘的な天然のプールがあり、サイパンで一番人気のダイビングスポットとなっている。一方、ハワイには全米1位に選ばれた透明度が高いシュノーケリングスポットがあったり、海だけでなくダイヤモンドヘッドや世界遺産にも登録されている火山も見ることが可能だ。グアム最南端には島を囲む美しいラグーンの絶景を見渡せる天国の丘がありトレッキングを楽しむ事ができる。

	検索ヒット件数	タグ件数
「サイパン 自然」	311 万	0
「グアム 自然」	1330 万	2
「ハワイ 自然」	2630 万	177

(表4) 「自然」

◇「ショッピング」

「ショッピング」分野ではサイパンとグアム・ハワイでは大きな情報量の差が見られた。(表3) サイパンには代表的な大きなショッピングモールが4つある。そのうちの1つは世界のラグジュアリーブランドを楽しめるTギャラリアだ。しかしその売り場は1階のみで30-40分あれば回り切れてしまう大きさである。かつてサイパンに豪華なショッピングモールがもう1つあったが、経営不振により倒産してしまっている。それに対して、グアムには免税店に加えて、アウトレットモールやアメリカのデパート、アミューズメントレストランなど大人から子供まで楽しめる施設が充実している。ハワイにも免税店があり、350以上の店舗が入ったハワイ最大級のショッピングセンターアラモアナセンターがある。ショッピングだけで1日楽しむ事も可能である。

	検索ヒット件数	タグ件数
「サイパン ショッピング」	244 万	12
「グアム ショッピング」	1250 万	1525
「ハワイ ショッピング」	1960 万	3478

(表5) 「ショッピング」

このように、グアム・ハワイには「ビーチ」「自然」「ショッピング」の分野において充実しており、サイパンは「サイパンでしかできないこと」「サイパンにしかないもの」がなく、サイパンでできることはグアム・ハワイでもできてしまうことが多いことがわかった。それ以上に「サイパンではできないけど、グアム・ハワイではできる」ことが多いことによって、消費者はサイパンではなく、過ごし方の選択肢の幅が広いグアムやハワイを選んでいると考えられる。

7. 結論

「なぜサイパンから日本人が消えたのか」に対する結論は以下である。

- ①サイパンには「安い」から行っていた日本人が多く、結果として価格競争が起きた。
- ②価格競争による収益の低さから JAL は撤退し、多くの日本人がサイパンへいく手段を失った。
- ③ピーク時、サイパンの全体の訪問者数 70% を占めていた日本人訪問者の大幅な減少によってサイパンは観光資金を失い、複数の観光施設が閉鎖されて行った。
- ⑤日本-サイパン間の航空券の価格は上昇し、サイパンに行くよりも高い満足度を得られる旅をサイパンに行くよりも安い価格でグアム・ハワイにて経験できるようになった。

その結果として、日本人はサイパンに行かなくなった。今回の調査を通して、サイパンでは価格競争が起きてしまったために、「安い、近い、すぐ行ける」のイメージが定着してしまい日本人の減少に繋がったと結論付けられる。すでに定着しているイメージから脱却するべく、近年サイパンは自国のプロモーションに力を入れている。「安い、近い、すぐ行ける」のイメージが定着してしまっている「サイパン」を改め「マリアナ」の名前を積極的に使用して、3つの島から構成されている事もちなみ「3連休はマリアナ」という新たなキャッチコピーを打ち出した。サイパンの観光キャラクターであった「サイパンだ！」は事実上の引退をし、日本で広く PR する新たな観光大使として、マリアナ出身の7歳の男の子「マリアナちゃん」を任命した。スカイマークによって日本からの直行便が復活した今、再び多くの日本人が訪れる観光地となるのか、今後の動向に注目していきたい。

8. 終わりに

2年間のゼミ活動を通して、物事を論理的に考える難しさ、重要性とともにその面白さにも気付かされました。しかしこの卒業論文を書くにあたって、自分から疑問を持ち、情報を集め、必要情報を自ら選択して活用する難しさを痛感しました。ゼミ中は議論を聞くばかりで学ぶことばかりでしたが、網倉先生のゼミに所属できたことを嬉しく思います。2年間大変お世話になり、ありがとうございました。

<参考文献>」

サイパンとグアム、日本人が消えた楽園の今

<https://toyokeizai.net/articles/-/162183>

マリアナ政府観光局ホームページ

<https://japan.mymarianas.com/travelinfo/saipan/>

Commonwealth of the Northern Mariana Islands Statistical Yearbook 2001

<https://play.google.com/books/reader?id=UakUAQAAMAAJ&hl=ja&pg=GBS.PA88>

アウトバウンド 日本人海外旅行動向(2020)<https://www.tourism.jp/tourism-database/stats/outbound/>

マリアナ政府観光局ホームページ **来島者数統計(2007-2018)**

<https://japan.mymarianas.com/agent/arrivals/>

HAWAII ANNUAL VISITOR RESEARCH REPORT(1999-2018)<https://dbedt.hawaii.gov/visitor/visitor-research/>

Guam Visitor Arrival Statistics(2000-

2016)<https://www.guamvisitorsbureau.com/research/statistics/visitor-arrival-statistics>

Sustainable Tourism Development in The Marianas(2017)

https://drive.google.com/file/d/1WBM9XQtTyqSm_2VvCp5T8CyxT_IHhQkz/view

スカイマークホームページ

<https://www.skymark.co.jp/international/ja/campaign/saipanspecial/>

Tourism Master Plan for the Commonwealth of the Northern Mariana Islands

<https://books.google.co.jp/books?id=AcWAAAAAMAAJ&pg=SL3-PA54&lpg=SL3->

[PA54&dq=mariana+tourism+master+plan+1997&source=bl&ots=dk31m9wgnU&sig=ACfU3U1E4XPF5pF7yg-](https://books.google.co.jp/books?id=AcWAAAAAMAAJ&pg=SL3-PA54&lpg=SL3-PA54&dq=mariana+tourism+master+plan+1997&source=bl&ots=dk31m9wgnU&sig=ACfU3U1E4XPF5pF7yg-)

[0bOX4V3lb3XC08g&hl=ja&sa=X&ved=2ahUKEwjVtKbW4ffmAhUbPnAKHSOaAXAQ6AEwAHoECAkQ](https://books.google.co.jp/books?id=AcWAAAAAMAAJ&pg=SL3-PA54&lpg=SL3-PA54&dq=mariana+tourism+master+plan+1997&source=bl&ots=dk31m9wgnU&sig=ACfU3U1E4XPF5pF7yg-0bOX4V3lb3XC08g&hl=ja&sa=X&ved=2ahUKEwjVtKbW4ffmAhUbPnAKHSOaAXAQ6AEwAHoECAkQ)

[AQ#v=onepage&q=japanese%20&f=false](https://books.google.co.jp/books?id=AcWAAAAAMAAJ&pg=SL3-PA54&lpg=SL3-PA54&dq=mariana+tourism+master+plan+1997&source=bl&ots=dk31m9wgnU&sig=ACfU3U1E4XPF5pF7yg-0bOX4V3lb3XC08g&hl=ja&sa=X&ved=2ahUKEwjVtKbW4ffmAhUbPnAKHSOaAXAQ6AEwAHoECAkQAQ#v=onepage&q=japanese%20&f=false)

JALグループ、ハワイ・グアム・サイパン・香港行きに「スーパー前売り悟空」運賃を追加設定！

<http://www.jal.com/ja/press/2004/111801/111801.html>

ALグループ、ハワイ・グアム・サイパン・香港行きに「スーパー前売り悟空」運賃を追加設定！

<http://www.jal.com/ja/press/2004/111801/img/JGN04086.pdf>

航空サービスの舞台裏

<http://www.mediajapan.sg/ebook/asiax/vol325/>

サイパンならではの素晴らしい自然と絶景「禁断の島」とは？買い物するならここで決まり！グアムで人気の6大ショッピングモール https://www.jtb.co.jp/kaigai_guide/report/MP/2017/07/forbidden-island.html

サイパンのおススメ観光スポット 26 選 <https://tabippo.net/saipan-good-spot/>

サイパンで大満足のショッピング！買い物スポット・最新エリア情報

<https://tabinaka.co.jp/magazine/articles/75070>

買い物するならここで決まり！グアムで人気の6大ショッピングモール

https://www.leopalaceresort.com/meet_guam/info/20180806_000473.html

トラベルコ公式ホームページ

https://www.tour.ne.jp/w_air/

中韓が席巻、日本人消えたサイパン

<https://www.sankei.com/premium/news/190711/prm1907110005-n3.html>